

神戸生活創造センターの管理運営に関する評価〔平成31/令和元～令和3年度〕 (神戸生活創造センター指定管理候補者選定委員会)

1 運營業務

- 神戸から新長田への移転に加え、コロナウイルスの影響でイレギュラーな運営状況となった。令和2年度は利用料収入が3分の1になるなど、工夫をしないと運営が難しい状況が現在も続いている。来年度以降コロナが収束すれば、移転後初めて平常ベースの運営となるがそのときに何をセールスポイントにするかが重要になるので、その前に移転の影響、コロナの影響が整理されていることが望ましい。課題、よかったこと、苦労したことや工夫したこと、行政への要望事項等の特論として整理してほしい。
- 地域との繋がりが課題として挙げられているが、総合衛生学院が近隣に移転してくることもあるので、特に周辺の学校、若い人の世代との連携を今後さらに強化していく取り組みが必要である。
- アンケートによると図書コーナーの満足度が非常に高い。新しい施設であるということもあるが、選書にも高い評価が得られていると思う。利用者の年齢層に偏りが大きいので、図書コーナーをきっかけに、今後若い世代(40～50代)の利用者が増えることを期待している。
- 今後、コロナのような感染症などとうまく付き合いながらセンターを運営するために、通常とは別の新しい事業のあり方を取り入れることで利用者の幅を広げるようになってほしい。

2 利用状況

- 今期は東の方のグループの利用が減少して、長田のグループの利用が増加した。東のグループの減少理由は、距離が遠くなったためなのか、コロナで電車に乗りたくないからなのかは判断が難しい。自転車や徒歩で来られる長田のグループは増えている。移転理由による増減は指定管理者の運営とは関係ないところではあるが、周辺のリサーチや事業の工夫で利用者増に努力してほしい。

3 収支状況

- 今回は、コロナによる影響を大きく受けた指定管理期間となった。国の交付金などで収入減少分が補填されているが、実績報告書にはそういう経費面の分析があまり見られない。何のためにどういうものが充てられたのかがわかるように報告書を作成する必要がある。

神戸生活創造センター指定管理候補者選定委員会 (敬称略)

氏名	役職等	備考
浅野 良一	兵庫教育大学 特任教授	委員長
宇田 名保美	ADU株式会社 代表取締役、中小企業診断士	
小林 由佳	株式会社神戸新聞社 論説委員	
清水 勲夫	一般財団法人野外活動協会 専務理事	
竹森 俊策	兵庫県神戸県民センター 副センター兼県民交流室長	